

## 飼料用米「ミズホチカラ」管理情報 NO.2

### 1 生育概況

7月の気象は平年と比較して、平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多くなりました。8月1日の生育調査の結果、目立った病害虫の発生はなく、順調に生育していました。今後の穂肥や病害虫防除の時期については、適期を逃さずに作業できるよう計画を立てましょう。

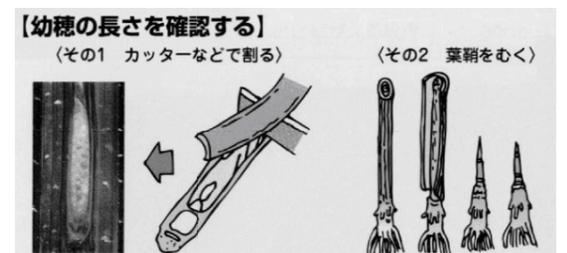
田植日	穂肥時期の目安		出穂期の目安 (平年)
	1回目 (出穂の20~18日前)	2回目	
6月9日頃	8月10~12日頃	1回目の7~10日後	8月30日頃
6月16日頃	8月14~16日頃		9月3日頃
6月23日頃	8月16~18日頃		9月5日頃

### 2 穂肥

基肥に「緩効性一発肥料」(えさ米専用一発2566)を施用した場合は、穂肥施用は必要ありません。  
ただし、葉色(4.0以下)および生育が極端に悪い場合は各プラザにご相談ください。

基肥に「化成肥料」(くみあい化成ベスト444)を施用した場合は下表のとおり2回の穂肥を実施してください。

1回目の穂肥				2回目の穂肥	
幼穂長	出穂前日数	時期の目安	肥料	時期	肥料
2~5mm	18~20日	生育概況の表を参照	硫安 20kg/10a	1回目の 7~10日後	硫安 10kg/10a



### 3 病害虫

特に近年、増加しているイネカメムシは水稲品種にかかわらず収量・品質に大きく影響を及ぼしており、昨年産ミズホチカラの収量低下の主要因です。下記対策により防除を徹底しましょう。

#### 《イネカメムシについて》

特徴	・成虫の体長は12~13mm、幅5~6mmで体色は茶褐色
生態	・雑木林等の越冬地から出穂前後の水稲に飛来し、水稲穂を吸汁 ・出穂の早い品種から順に遅い品種へ移動し、被害を及ぼす
被害	・出穂期に被害にあった場合、不稔籾が発生し収量が低下 ・乳熟期に被害にあった場合、斑点米が発生し品質が低下
対策	・ <b>「出穂期」と「出穂期の1週間後」の2回防除が基本</b> ※粒剤は効果発現に時間を要するため上記の1週間前に施用 ・防除薬剤は「エクシード剤」か「スタークル剤」を使用



#### 《トビイロウンカについて》

県内では6月下旬からトビイロウンカの飛来が確認され、トビイロウンカを対象とした防除適期は“8月24~26日頃”と考えられます。ミズホチカラは熟期が遅くトビイロウンカの被害を受けやすいため、今後の発生に注意しましょう。

対象病害虫等	農薬名	処理量(10aあたり)	使用時期	使用回数
ウンカ、カメムシ類	エクシード粉剤 DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	エクシードフロアブル	2,000倍		
稲こうじ病、ごま葉枯病 いもち病	ノンプラス粉剤 DL	4kg		2回以内
	ノンプラスフロアブル	1,000倍		

### 4 今後の水管理

令和5年産の水田活用交付金から、飼料用米は1.7mmのふるい上のみを助成対象とすることに変更されたため、より一層粒の充実を向上させることが重要です。粒の充実には落水時期をできるかぎり遅くすることが有効です。水利の関係上、早く用水が切れる場合は、用水が切れる前に満水にして水尻を止めできるかぎり落水を遅らせるようにしましょう。